



トレース

- [トレース \(1 ページ\)](#)
- [トレースの設定 \(5 ページ\)](#)

トレース

Cisco Unified Serviceability では、音声アプリケーションの問題のトラブルシューティングで使用できるトレース ツールを提供しています。Cisco Unified Serviceability は、SDI (System Diagnostic Interface) トレース、Cisco CallManager サービスおよび Cisco CTIManager サービス用の SDL (Signaling Distribution Layer) トレース (Unified Communications Manager に適用可能)、および Java アプリケーション用の Log4J トレースをサポートしています。

トレースする情報のレベルや、各トレースファイルに含める情報の種類は、[Trace Configuration] ウィンドウを使用して指定します。

Unified Communications Manager のみ：サービスが、Cisco CallManager や Cisco CTIManager などのコール処理アプリケーションの場合、電話機やゲートウェイなどのデバイスに対してトレースを設定することができます。

Unified Communications Manager のみ：[アラーム設定] ウィンドウで、SDL トレース ログ ファイルなど、さまざまな場所にアラームを送ることができます。必要に応じて、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (Unified RTMT) での警告用にトレースを設定することもできます。

さまざまなサービスに対しトレースファイルに含める情報を設定したら、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool の Trace and Log Central オプションを使用して、トレース ファイルを収集および表示できます。

Cisco Unified IM and Presence Serviceability には、インスタント メッセージングおよびプレゼンス アプリケーションの問題のトラブルシューティングに使用できるトレース ツールが用意されています。Cisco Unified IM and Presence Serviceability では、次のトレースをサポートしています。

- SDI トレース
- Log4J トレース (Java アプリケーション用)

トレースする情報のレベル（デバッグレベル）、トレースする情報（トレースフィールド）、およびトレースファイルに関する情報（サービスごとのファイル数、ファイルサイズ、トレースファイルにデータが保存された時間など）を設定できます。1つのサービスに対してトレースを設定することも、クラスタ内のすべてのサーバに対してサービスのトレース設定を適用することもできます。

[アラーム設定 (Alarm Configuration)] ウィンドウでは、さまざまな場所にアラームを送ることができます。必要に応じて、IM and Presence Unified RTMT での警告用にトレースを設定することもできます。

さまざまなサービスに対しトレース ファイルに含める情報を設定したら、Unified RTMT の Trace and Log Central オプションを使用して、トレース ファイルを収集および表示できます。クラスタ内の任意の IM and Presence ノードで使用できる任意の機能またはネットワーク サービスのトレース パラメータを設定できます。[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウを使用して、問題をトラブルシューティングするためにトレースするパラメータを指定します。独自のトレース フィールドを選択する代わりに、あらかじめ決められたトラブルシューティングトレース設定を使用するには、[トラブルシューティングトレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウを使用します。



(注) トレースをイネーブルにすると、システムのパフォーマンスが低下します。そのため、トレースは、トラブルシューティング目的でのみイネーブルにします。トレースの使用について支援が必要な場合は、Cisco Technical Assistance Center (TAC) にお問い合わせください。

トレース設定

トレースパラメータは、Serviceability のインターフェイスに表示される任意の機能またはネットワーク サービスに対して設定できます。クラスタがある場合は、クラスタ内の任意のサーバで使用できる機能またはネットワーク サービスに対してトレースパラメータを設定できます。[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウを使用して、問題をトラブルシューティングするためにトレースするパラメータを指定します。

トレースする情報のレベル（デバッグレベル）、トレースする情報（トレースフィールド）、およびトレースファイルに関する情報（サービスごとのファイル数、ファイルサイズ、トレースファイルにデータが保存された時間など）を設定できます。クラスタがある場合、1つのサービスに対してトレースを設定することも、クラスタ内のすべてのサーバに対してサービスのトレース設定を適用することもできます。

独自のトレースフィールドを選択する代わりに、あらかじめ決められたトラブルシューティングトレース設定を使用するには、[トラブルシューティングトレース (Troubleshooting Trace)] ウィンドウを使用します。トラブルシューティングトレースの詳細については、「トレースの設定」を参照してください。

さまざまなサービスに対しトレース ファイルに含める情報を設定したら、Unified RTMT の Trace and Log Central オプションを使用して、トレース ファイルを収集できます。トレースの収集に関連する詳細情報については、「トレース収集」を参照してください。

トレース設定

[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウでは、事前に設定されたトラブルシューティング トレース設定に設定するサービスを選択できます。このウィンドウでは、1つ以上のサービスを選択し、これらのサービスの設定を、事前に設定されたトレース設定に変更できます。クラスタがある場合、クラスタ内の異なるサーバ上のサービスを選択して、そのサービスのトレース設定を事前に設定されたトレース設定に変更することができます。1台のサーバの特定のアクティブ化されたサービス、サーバのすべてのアクティブ化されたサービス、クラスタ内のすべてのサーバの特定のアクティブ化されたサービス、クラスタ内のすべてのサーバのすべてのアクティブ化されたサービスを選択できます。このウィンドウでは、非アクティブなサーバの横に [N/A] と表示されます。



(注) 機能またはネットワーク サービスの事前に決定されたトラブルシューティング トレース設定には、SDL、SDI、および Log4j トレース設定があります。トラブルシューティング トレース設定が適用される前に、元のトレース設定がバックアップされます。トラブルシューティング トレース設定をリセットすると、元のトレース設定が復元されます。

トラブルシューティング トレース設定をサービスに適用した後で [トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウを開くと、トラブルシューティング用に設定したサービスがチェック付きで表示されます。[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウでは、トレース設定を元の設定にリセットできません。

トラブルシューティング トレース設定をサービスに適用すると、トラブルシューティング トレースがそのサービスに設定されたことを示すメッセージが [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウに表示されます。サービスの設定をリセットする場合は、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから、[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] オプションを選択できます。指定したサービスの [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウでは、すべての設定が読み取り専用として表示されます。ただし、最大ファイル数など、トレース出力設定の一部のパラメータを除きます。これらのパラメータは、トラブルシューティング トレース設定を適用した後でも変更できません。

トレース収集

各種サービス トレースやその他のログファイルを収集、表示、および zip 圧縮するには、Trace and Log Central (Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool のオプション) を使用します。Trace and Log Central オプションを使用すると、SDL/SDI トレース、アプリケーションログ、システムログ (イベント ビューア アプリケーションログ、セキュリティログ、システムログなど)、クラッシュ ダンプファイルを収集できます。



ヒント 収集したトレース ファイルの表示には Windows のメモ帳は使用しないでください。Windows のメモ帳では改行が正しく表示されません。



(注) Unified Communications Manager のみ：暗号化をサポートするデバイスでは、Secure Real-time Transport Protocol (SRTP) のセキュア キー関連情報はトレース ファイルに表示されません。

トレース収集の詳細情報については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

着信側トレース

着信側トレースでは、トレースする電話番号または電話番号のリストを設定できます。セッション トレース ツールを使用して、コールのオンデマンド トレースを要求できます。

詳細については、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。

トレース設定のセットアップ

次の手順では、Serviceability インターフェイスの機能およびネットワーク サービスのトレースを設定および収集する手順の概要を示します。

手順

- ステップ 1** 次のいずれかの手順を実行して、TLC Throttling CPU Goal および TLC Throttling IOWait Goal サービス パラメータ (Cisco RIS Data Collector サービス) の値を設定します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理および Cisco Unified IM and Presence : システム > サービス パラメータ を選択し、TLC Throttling CPU Goal および TLC Throttling IOWait Goal サービス パラメータ (Cisco RIS Data Collector サービス) の値を設定します。
 - Cisco Unity Connection のみ : Cisco Unity Connection Administration で [システム設定 (System Settings)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択し、TLC Throttling CPU Goal および TLC Throttling IOWait Goal サービス パラメータ (Cisco RIS Data Collector サービス) の値を設定します。
- ステップ 2** トレースを収集するサービスのトレース設定を行います。クラスタがある場合、1 台のサーバ、またはクラスタ内のすべてのサーバに対してサービスのトレースを設定できます。
- トレース設定を行う場合、デバッグ レベルとトレース フィールドを選択してトレース ログに含める情報を選択します。

サービスで事前に設定されているトレースを実行する場合は、これらのサービスのトラブルシューティング トレースを設定します。

- ステップ 3** ローカル PC に Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool をインストールします。
- ステップ 4** 監視されているトレースファイル内に指定された検索文字列が存在するときにアラームを生成する場合は、Unified RTMT の LogFileSearchStringFound アラートを有効にします。
- LogFileSearchStringFound アラームは LpmTctCatalog にあります。[アラーム (Alarms)] > [定義 (Definitions)] を選択します。[アラームの検索場所 (Find alarms where)] ドロップダウンリストボックスで [システムアラームカタログ (System Alarm Catalog)] を選択し、[等しい (Equals)] ドロップダウンリストボックスで [LpmTctCatalog] を選択します。
- ステップ 5** CriticalServiceDownand CodeYellow など、アラートのトレースを自動的にキャプチャする場合は、Unified RTMT の特定のアラートの [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] ダイアログボックスで [トレースダウンロードのイネーブル化 (Enable Trace Download)] チェックボックスをオンにし、ダウンロードを実行する頻度を設定します。
- ステップ 6** トレースを収集します。
- ステップ 7** 適切なビューアでログ ファイルを表示します。
- ステップ 8** トラブルシューティングトレースをイネーブルにすると、トレース設定サービスがリセットされて、元の設定に戻ります。

(注) トラブルシューティングトレースを長時間イネーブルのままにすると、トレースファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスに影響が生じるおそれがあります。

トレースの設定

ここでは、トレースの設定について説明します。



- (注) トレースをイネーブルにすると、システムのパフォーマンスが低下します。そのため、トレースは、トラブルシューティング目的でのみイネーブルにします。トレースの使用について支援が必要な場合は、テクニカル サポート チームにお問い合わせください。

トレース パラメータの設定

ここでは、Serviceability GUI で管理する機能サービスとネットワーク サービスのトレース パラメータを設定する方法について説明します。



ヒント Cisco Unity Connection では、Cisco Unified Serviceability および Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを実行して Cisco Unity Connection の問題をトラブルシューティングする必要がある場合があります。Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを実行する方法については、『Cisco Unity Connection Serviceability Administration Guide』を参照してください。

手順

ステップ 1 [トレース (Trace)] > [設定 (Configuration)] の順に選択します。

[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストボックスから、トレースを設定するサービスを実行しているサーバを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 3 [サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストボックスから、トレースを設定するサービスのサービスグループを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ヒント 「トレース設定のサービスグループ」の表に、[サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストボックスに表示されるオプションに対応するサービスとトレースライブラリの一覧を示します。

ステップ 4 [サービス (Service)] ドロップダウンリストボックスからトレースを設定するサービスを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ドロップダウンリストボックスには、アクティブなサービスと非アクティブのサービスが表示されます。

ヒント Cisco Unity Connection のみ：Cisco CallManager サービスおよび CTIManager サービスでは、SDL トレースパラメータを設定できます。設定を行うには、いずれかのサービスの [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウを開き、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスの横にある [移動 (Go)] ボタンをクリックします。

サービスのトラブルシューティング トレースを設定すると、トラブルシューティング トレース機能が設定されていることを示すメッセージがウィンドウの上部に表示されます。これは、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウのフィールドが、[トレース出力設定 (Trace Output Settings)] 以外すべて無効になることを意味します。[トレース出力設定 (Trace Output Settings)] を設定するには、ステップ 11 に進みます。トラブルシューティング トレースをリセットするには、トラブルシューティング トレース設定のセットアップを参照してください。

選択したサービスのトレースパラメータが表示されます。また、[すべてのノードに適用する] チェックボックスが表示されます (Cisco Unified Communications Manager のみ)。

ステップ 5 Unified Communications Manager および IM and Presence のみ：クラスタをサポートしている設定の場合は、必要に応じて [すべてのノードに適用 (Apply to All Nodes)] チェックボックスを

オンにして、クラスタ内のすべてのサーバにサービスのトレース設定またはトレースライブラリを適用できます。

- ステップ 6** トレースオンチェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** Cisco Unity Connection のみ：SDL トレース パラメータを設定している場合は、ステップ 10 に進みます。
- ステップ 8** 「デバッグトレース レベルの設定」の記述に従って、トレースする情報のレベルを [デバッグトレース レベル (Debug Trace Level)] リスト ボックスから選択します。
- ステップ 9** 選択したサービスの [トレースフィールド (Trace Fields)] チェックボックス (たとえば、[Cisco Log Partition Monitoring Tool トレースフィールド (Cisco Log Partition Monitoring Tool Trace Fields)]) をオンにします。
- ステップ 10** アクティブ化するトレースを指定できるトレース設定がサービスに複数存在しない場合は、[すべてのトレースをイネーブル化 (Enable All Trace)] チェックボックスをオンにします。選択したサービスに複数のトレース設定がある場合は、「トレース フィールドの説明」の記述に従って、イネーブル化するトレースのチェックボックスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 11** トレースファイルの数とサイズを制限するには、トレース出力設定を指定します。詳細については、トレース出力設定を参照してください。
- ステップ 12** トレース パラメータの設定を保存するには、[保存 (Save)] ボタンをクリックします。

トレース設定に加えた変更は、Cisco Messaging Interface 以外のすべてのサービスに即座に反映されます (Unified Communications Manager のみ)。Cisco Messaging Interface のトレースの設定変更は、3～5 分で有効になります。

(注) デフォルトを設定するには、[デフォルトの設定 (Set Default)] ボタンをクリックします。

トレース設定のサービスグループ

次の表に、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウの [サービスグループ (Service Group)] ドロップダウンリストボックスに表示されるオプションに対応するサービスとトレースライブラリの一覧を示します。

表 1: トレース設定のサービスグループ

サービスグループ	サービスおよびトレースライブラリ	注記
Unified Communications Manager CM サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco CTIManager • Cisco CallManager • Cisco CallManager Cisco IP 電話Service • Cisco DHCP Monitor サービス • Cisco Dialed Number Analyzer • Cisco Dialed Number Analyzer Server • Cisco Extended Functions、Cisco エクステンション モビリティ • Cisco Extension Mobility アプリケーション • Cisco IP Voice Media Streaming App • Cisco Messaging Interface • Cisco TFTP • Cisco Unified Mobile Voice Access Service 	CM サービスグループのほとんどのサービスでは、サービスのすべてのトレースを有効化する代わりに、特定のコンポーネントのトレースを実行することができます。[トレース (Trace)] フィールドの説明は、特定のコンポーネントのトレースを実行できるサービスを示します。
Unified Communications Manager CTI サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco IP Manager Assistant • Cisco Web Dialer Web Service 	これらのサービスでは、サービスに対してすべてのトレースを有効化する代わりに、特定のコンポーネントのトレースを実行できます。トレース フィールドの説明を参照してください。

サービスグループ	サービスおよびトレースライブラリ	注記
Unified Communications Manager CDR サービス	<ul style="list-style-type: none">• Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Scheduler• Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Web Service• Cisco CDR Agent• Cisco CDR Repository Manager	

サービスグループ	サービスおよびトレースライブラリ	注記
		<p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、各サービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting では、ストアドプロシージャを呼び出すレポートが実行されると、ストアドプロシージャのロギングが開始される前に、Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting が [トレース設定] ウィンドウの Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Scheduler サービスおよび Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Web サービスの設定されたデバッグトレースレベルを確認します。事前生成レポートの場合は、Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting が Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Scheduler サービスのレベルをチェックします。オンデマンドレポートの場合は、Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting が Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Web Service のレベルをチェックします。[Debug Trace Level] ドロップダウンリストボックスから [Debug] を選択した場合、ストアドプロシージャのロギングがイネーブルにされ、ドロップダウンリストボックスで別のオプションを選択するまで続行されます。以下の Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting レポートでは、ストアドプロシージャのロギングが使用されます。ゲートウェイ使用状況レポート、ルートおよび回線グループ使用状況レポート、ルートまたはハントリスト使用状況レポート、ルートパターンまたはハントパイロット使用状況レポート、会議コール詳細レポート、会議コール要約レポート、会議ブリッジ使用状況レポート、ボイスメッセージ使用状況レポート、CDR 検索レポート。</p>

サービスグループ	サービスおよびトレースライブラリ	注記
IM and Presence サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Client Profile Agent • Cisco Config Agent • Cisco Intercluster Sync Agent • Cisco Login Datastore • Cisco OAM Agent • Cisco Presence Datastore • Cisco Presence Engine • Cisco IM and Presence Data Monitor • Cisco Route Datastore • Cisco SIP Proxy • Cisco SIP Registration Datastore • Cisco Server Recovery Manager • Cisco Sync Agent • Cisco XCP Authentication Service • Cisco XCP Config Manager • Cisco XCP Connection Manager • Cisco XCP Directory Service • Cisco XCP Message Archiver • Cisco XCP Router • Cisco XCP SIP Federation Connection Manager • Cisco XCP Text Conference Manager • Cisco XCP Web Connection Manager • Cisco XCP XMPP Federation Connection Manager 	<p>これらのサービスの説明については、Cisco Unified IM and Presence Serviceability の機能とネットワーク サービスに関連するトピックを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これらのサービスでは、特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにする必要があります。

サービスグループ	サービスおよびトレースライブラリ	注記
データベースおよび管理者サービス	<p>Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AXL Web Service • Cisco CCMDBL Web Library • Cisco CCMAdmin Web Service • Cisco CCMUser Web サービス • Cisco Database Layer Monitor • Cisco UXL Web サービス <p>Unified Communications Manager</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Bulk Provisioning サービス • Cisco GRT Communications Web サービス • Cisco Role-based Security • Cisco TAPS サービス • Cisco Unified Reporting Web サービス <p>IM and Presence サービス :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AXL Web Service • Cisco Bulk Provisioning サービス • Cisco CCMUser Web サービス • Cisco Database Layer Monitor • Cisco GRT Communications Web サービス • Cisco IM and Presence Admin • Cisco Unified Reporting Web サービス • Platform Administrative Web サービス 	<p>Cisco CCM DBL Web Library オプションを選択すると、Java アプリケーションのデータベースアクセスのトレースがアクティブ化されます。C++ アプリケーションのデータベースアクセスの場合は、Cisco Extended Functions トレース フィールドで説明するように、Cisco Database Layer Monitor のトレースをアクティブ化します。</p> <p>Unified Communications Manager をサポートする Cisco Role-based Security オプションを選択すると、ユーザ ロールの許可に対するトレースが有効となります。</p> <p>データベースおよび管理者サービスグループのほとんどのサービスでは、特定のコンポーネントのトレースをイネーブルにするのではなく、サービスまたはライブラリのすべてのトレースをイネーブルにします。Cisco Database Layer Monitor の場合、特定のコンポーネントのトレースを実行できます。</p> <p>(注) サービスのロギングの制御は、Cisco Unified IM and Presence Serviceability の UI で実行できます。ログ レベルを変更するには、[システムサービス (System Services)] グループと [Cisco CCMSERVICE Web サービス (Cisco CCMSERVICE Web Service)] を選択します。</p>

サービスグループ	サービスおよびトレースライブラリ	注記
パフォーマンスおよびモニタリングサービス	<p>Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AMC サービス • Cisco CCM NCS Web Library • CCM PD Web サービス • Cisco CallManager SNMP サービス • Cisco Log Partition Monitoring Tool • Cisco RIS Data Collector • Cisco RTMT Web Service • Cisco Audit Event Service • Cisco RisBean Library <p>Unified Communications Manager :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CCM PD Web サービス <p>IM and Presence サービス :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AMC サービス • Cisco Audit Event Service • Cisco Log Partition Monitoring Tool • Cisco RIS Data Collector • Cisco RTMT Web Service • Cisco RisBean Library 	<p>Cisco CCM NCS Web Library オプションを選択すると、Java クライアントのデータベース変更通知のトレースがアクティブ化されます。</p> <p>Cisco Unity RTMT Web サービス オプションを選択すると、Unity RTMT サーブレットのトレースがアクティブ化されます。このトレースを実行すると、Unity RTMT クライアントクエリーのサーバ側のログが作成されます。</p>
Unified Communications Manager セキュリティサービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco CTL Provider • Cisco Certificate Authority Proxy Function • シスコ信頼検証サービス 	<p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、各サービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>
Unified Communications Manager ディレクトリサービス	Cisco DirSync	<p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>

サービスグループ	サービスおよびトレースライブラリ	注記
バックアップおよび復元サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco DRF Local • Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection のみ : Cisco DRF Master 	特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、各サービスのすべてのトレースをイネーブルにします。
システム サービス	<p>Unified Communications Manager :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CCMRealm Web Service • Cisco CCMService Web Service • Cisco Common User Interface • Cisco Trace Collection サービス <p>IM and Presence サービス :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CCMService Web Service • Cisco Trace Collection サービス 	<p>Cisco CCMRealm Web Service オプションを選択すると、ログイン認証のトレースがアクティブ化されます。</p> <p>Cisco Common User Interface オプションを選択すると、複数のアプリケーションが使用する共通コードのトレースがアクティブ化されます。たとえば、Cisco Unified Operating System Administration や Cisco Unified Serviceability などが該当します。</p> <p>Cisco CCMService Web Service オプションを選択すると、Cisco Unified Serviceability の Web アプリケーション (GUI) のトレースがアクティブ化されます。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、各オプションまたはサービスのすべてのトレースを有効化します。</p>
SOAP サービス	<ul style="list-style-type: none"> • CiscoSOAP Web サービス • CiscoSOAPMessage サービス 	<p>Cisco SOAP Web Service オプションを選択すると、AXL Serviceability API のトレースがアクティブ化されます。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>
プラットフォーム サービス	Cisco Unified OS Admin Web Service	<p>Cisco Unified OS Admin Web Service は Cisco Unified Operating System Administration をサポートしています。これは、証明書管理、バージョンの設定、およびインストールやアップグレードなどのプラットフォーム関連の機能を管理する Web アプリケーションです。</p> <p>特定のコンポーネントのトレースを実行する代わりに、このサービスのすべてのトレースをイネーブルにします。</p>

デバッグ トレース レベルの設定

次の表に、サービスのデバッグ トレース レベル設定について説明します。

表 2: サービスのデバッグ トレース レベル

レベル	説明
エラー (Error)	アラームの状態とイベントをトレースします。異常なパスで生成されるすべてのトレースに使用します。CPU サイクルの最小数を使用します。
特殊 (Special)	すべてのエラー状態と、プロセスおよびデバイスの初期化メッセージをトレースします。
状態遷移 (State Transition)	すべての特殊条件と、通常運用中に発生するサブシステムの状態遷移をトレースします。コール処理イベントをトレースします。
重大 (Significant)	通常運用時に発生するすべての状態遷移条件とメディアレイヤイベントをトレースします。
開始/終了 (Entry/Exit)	(注) すべてのサービスがこのトレースレベルを使用するわけではありません。 重要なすべての状態と、ルーチンの開始および終了点をトレースします。
任意 (Arbitrary)	すべての開始および終了状態と、低レベルのデバッグ情報をトレースします。
詳細 (Detailed)	すべての任意の条件と、詳細なデバッグ情報をトレースします。

次の表に、servlet のデバッグ トレース レベル設定について説明します。

表 3: servlet のデバッグ トレース レベル

レベル	説明
重大 (Fatal)	アプリケーションの中止を引き起こす可能性がある非常に重大なエラー イベントをトレースします。

レベル	説明
エラー (Error)	アラームの状態とイベントをトレースします。異常なパスで生成されるすべてのトレースに使用します。
警告 (Warn)	有害な可能性のある状況をトレースします。
情報 (Info)	多くのサブレットの問題をトレースします。システムパフォーマンスへの影響は最小です。
デバッグ (Debug)	通常運用時に発生するすべての状態遷移条件とメディア レイヤ イベントをトレースします。 すべてのロギングをオンにするトレース レベルです。

トレース フィールドの説明

一部のサービスでは、サービスのすべてのトレースをイネーブルにする代わりに、特定のコンポーネントのトレースをアクティブ化できます。次のリストに、特定のコンポーネントのトレースをアクティブにできるサービスを示します。いずれかの相互参照をクリックすると該当するセクションに移動し、サービスの各トレースフィールドの説明が表示されます。サービスが次のリストにない場合、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウにそのサービスの [すべてのトレースをイネーブル化 (Enable All Trace)] チェックボックスが表示されます。

以下のサービスは、Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection で利用することができます。

- Database Layer Monitor のトレース フィールド
- Cisco RIS Data Collector のトレース フィールド

以下のサービスは、Unified Communications Manager で利用することができます。

- Cisco CallManager SDI のトレース フィールド
- Cisco CallManager SDL のトレース フィールド
- Cisco CTIManager SDL のトレース フィールド
- Cisco Extended Functions のトレース フィールド
- Cisco エクステンション モビリティのトレース フィールド
- Cisco IP Manager Assistant のトレース フィールド
- Cisco IP Voice Media Streaming App のトレース フィールド
- Cisco TFTP のトレース フィールド

- Cisco Web Dialer Web サービスのトレース フィールド

Database Layer Monitor のトレース フィールド

次の表に、Cisco Database Layer Monitor のトレース フィールドを示します。The Cisco Database Layer Monitor サービスは、Unified Communications Manager および Cisco Unity Connectionをサポートします。

表 4: Cisco Database Layer Monitor のトレース フィールド

フィールド名	説明
DB ライブラリ トレースのイネーブル化 (Enable DB Library Trace)	C++ アプリケーションのデータベース ライブラリのトレースをアクティブ化します。
サービスのトレースのイネーブル化 (Enable Service Trace)	サービスのトレースをアクティブ化します。
DB変更通知のトレースのイネーブル化 (Enable DB Change Notification Trace)	C++ アプリケーションのデータベース変更通知トレースを有効にします。
単体試験のトレースのイネーブル化 (Enable Unit Test Trace)	このチェックボックスはオンにしないでください。デバッグ目的でシスコのエンジニアが使用します。

Cisco RIS Data Collector のトレース フィールド

次の表に、Cisco RIS Data Collector のトレース フィールドを示します。Cisco RIS Data Collector サービスは、Unified Communications Manager および Cisco Unity Connectionをサポートします。

表 5: Cisco RIS Data Collector のトレース フィールド

フィールド名	説明
RISDC のトレースのイネーブル化 (Enable RISDC Trace)	RIS データ コレクタ サービス (RIS) の RISDC スレッドのトレースをアクティブ化します。
システムアクセスのトレースのイネーブル化 (Enable System Access Trace)	RIS データ コレクタのシステムアクセス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
リンクサービスのトレースのイネーブル化 (Enable Link Services Trace)	RIS データ コレクタのリンク サービス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
RISDCアクセスのトレースのイネーブル化 (Enable RISDC Access Trace)	RIS データ コレクタの RISDC アクセス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
RISDB のトレースのイネーブル化 (Enable RISDB Trace)	RIS データ コレクタの RISDB ライブラリのトレースを有効にします。

フィールド名	説明
PI のトレースのイネーブル化 (Enable PI Trace)	RIS データ コレクタの PI ライブラリのトレースを有効にします。
XML のトレースのイネーブル化 (Enable XML Trace)	RIS データ コレクタ サービスの入出力 XML メッセージのトレースを有効にします。
Perfmon ロガーのトレースのイネーブル化 (Enable Perfmon Logger Trace)	RIS データ コレクタの perfmon データ ロギングをトラブルシューティングするためのトレースを有効にします。ログ ファイル、記録されたカウンタの総数、アプリケーションおよびシステム カウンタとインスタンスの名前、プロセスとスレッドの CPU パーセンテージの計算、ログファイルのロールオーバーと削除の発生をトレースするために使用します。

Cisco CallManager SDI のトレース フィールド

次の表に、Cisco CallManager SDI のトレース フィールドを示します。Cisco CallManager サービスは、Unified Communications Manager をサポートします。

表 6: Cisco CallManager SDI のトレース フィールド

フィールド名	説明
H245メッセージのトレースのイネーブル化 (Enable H245 Message Trace)	H245 メッセージのトレースをアクティブ化します。
DT-24+/DE-30+のトレースのイネーブル化 (Enable DT-24+/DE-30+ Trace)	DT-24+/DE-30+ デバイス トレースの ISDN タイプのロギングをアクティブ化します。
PRIのトレースのイネーブル化 (Enable PRI Trace)	一次群速度インターフェイス (PRI) デバイスのトレースをアクティブ化します。
ISDN変換のトレースのイネーブル化 (Enable ISDN Translation Trace)	ISDN メッセージ トレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。
H225とゲートキーパーのトレースのイネーブル化 (Enable H225 & Gatekeeper Trace)	H.225 デバイスのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。
各種のトレースのイネーブル化 (Enable Miscellaneous Trace)	各種デバイスのトレースをアクティブ化します。 (注) 通常のシステム動作中はこのチェックボックスをオンにしないでください。

フィールド名	説明
会議ブリッジのトレースのイネーブル化 (Enable Conference Bridge Trace)	会議ブリッジのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。
保留音のトレースのイネーブル化 (Enable Music on Hold Trace)	保留音 (MOH) デバイスのトレースをアクティブ化します。Unified Communications Managerへの登録、Unified Communications Managerへの登録解除、リソース割り当ての成功または失敗など、MOHデバイスのステータスのトレースのために使用されます。
UnifiedCM リアルタイム情報サーバーのトレースのイネーブル化 (Enable Unified CM Real-Time Information Server Trace)	Real-time Information Server が使用する Unified Communications Manager のリアルタイム情報トレースを有効化します。
SIPスタックのトレースのイネーブル化 (Enable SIP Stack Trace)	SIP スタックのトレースをアクティブ化します。デフォルトではイネーブルになっています。
アナunciエータのトレースのイネーブル化 (Enable Annunciator Trace)	Unified Communications Manager が、Cisco Unified IP Phone、ゲートウェイ、およびその他の設定可能なデバイスへ、録音済みの音声案内 (.wav ファイル) とトーンを再生できるようにするために、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを使用する SCCP デバイスである Annunciator のトレースを有効化します。
CDR のトレースのイネーブル化 (Enable CDR Trace)	CDR のトレースをアクティブ化します。
アナログ トランクのトレースのイネーブル化 (Enable Analog Trunk Trace)	すべてのアナログトランク (AT) ゲートウェイのトレースをアクティブ化します。
すべての電話機のトレースのイネーブル化 (Enable All Phone Device Trace)	電話機のトレースをアクティブ化します。トレース情報にはソフトフォンデバイスが含まれます。通常のデバッグに使用します。
MTPのトレースのイネーブル化 (Enable MTP Trace)	メディアターミネーションポイント (MTP) デバイスのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。
すべてのゲートウェイトレースのイネーブル化 (Enable All Gateway Trace)	すべてのアナログおよびデジタルゲートウェイのトレースをアクティブ化します。

フィールド名	説明
転送と各種のトレースのイネーブル化 (Enable Forward and Miscellaneous Trace)	別のチェックボックスで対象にされていないコール転送およびすべてのサブシステムのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。
MGCPのトレースのイネーブル化 (Enable MGCP Trace)	メディアゲートウェイコントロールプロトコル (MGCP) デバイスのトレースをアクティブ化します。通常のデバッグに使用します。
メディアリソースマネージャのトレースのイネーブル化 (Enable Media Resource Manager Trace)	メディアリソースマネージャ (MRM) のアクティビティのトレースをアクティブ化します。
SIP処理のトレースのイネーブル化 (Enable SIP Call Processing Trace)	SIP処理のトレースをアクティブ化します。
SCCPキープアライブのトレースのイネーブル化 (Enable SCCP Keep Alive Trace)	Cisco CallManager トレースの SCCP キープアライブ トレース情報のトレースをアクティブ化します。各 SCCP デバイスは 30 秒ごとにキープアライブ メッセージをレポートし、各キープアライブ メッセージは 3 行のトレースデータを作成するため、このチェックボックスがオンの場合大量のトレース データが生成されます。
SIPキープアライブ(REGISTER Refresh)のトレースのイネーブル化 (Enable SIP Keep Alive (REGISTER Refresh) Trace)	Cisco CallManager トレースの SIP キープアライブ (REGISTER Refresh) トレース情報のトレースをアクティブ化します。各 SIP デバイスは 2 秒ごとにキープアライブ メッセージをレポートし、各キープアライブ メッセージは複数行のトレース データを作成するため、このチェックボックスがオンの場合大量のトレース データが生成されます。

Cisco CallManager SDL のトレース フィールド

次の表で、Cisco CallManager SDL のトレース フィールド設定について説明します。Cisco CallManager サービスは、Unified Communications Manager をサポートします。



(注) シスコのエンジニアから指示された場合を除き、デフォルト設定を使用することを推奨します。

表 7: Cisco CallManager SDL の設定に対するトレース フィルタの設定

設定名	説明
すべてのレイヤ1トレースのイネーブル化。 (Enable all Layer 1 traces.)	レイヤ 1 のトレースをアクティブ化します。
詳細なレイヤ1のトレースのイネーブル化。 (Enable detailed Layer 1 traces.)	詳細なレイヤ 1 のトレースをアクティブ化します。
すべてのレイヤ2トレースのイネーブル化。 (Enable all Layer 2 traces.)	レイヤ 2 のトレースをアクティブ化します。
レイヤ2インターフェイスのトレースのイネーブル化。 (Enable Layer 2 interface trace.)	レイヤ 2 インターフェイスのトレースをアクティブ化します。
レイヤ2TCPのトレースのイネーブル化。 (Enable Layer 2 TCP trace.)	レイヤ2伝送制御プログラム (TCP) のトレースをアクティブ化します。
詳細なダンプレイヤ2のトレースのイネーブル化。 (Enable detailed dump Layer 2 trace.)	ダンプレイヤ 2 の詳細なトレースをアクティブ化します。
すべてのレイヤ3トレースのイネーブル化。 (Enable all Layer 1 traces.)	レイヤ 3 のトレースをアクティブ化します。
すべてのコール制御のトレースのイネーブル化。 (Enable all call control traces.)	コール制御のトレースをアクティブ化します。
各種のポーリングのトレースのイネーブル化。 (Enable miscellaneous polls trace.)	さまざまなポーリングに対するトレースをアクティブ化します。
各種のトレース(データベース信号)のイネーブル化。 (Enable miscellaneous trace (database signals).)	データベースの信号のようなさまざまなトレースをアクティブ化します。
メッセージ変換信号のトレースのイネーブル化。 (Enable message translation signals trace.)	メッセージ変換信号のトレースをアクティブ化します。
UUIEの出力のトレースのイネーブル化。 (Enable UUIE output trace.)	ユーザ間情報要素 (UUIE) の出力のトレースをアクティブ化します。
ゲートウェイ信号のトレースのイネーブル化。 (Enable gateway signals trace.)	ゲートウェイ信号のトレースをアクティブ化します。
CTIのトレースのイネーブル化。 (Enable CTI trace.)	CTI のトレースをアクティブ化します。
ネットワークサービスのデータのトレースのイネーブル化 (Enable network service data trace)	ネットワーク サービスのデータのトレースをアクティブ化します。

設定名	説明
ネットワークサービスのイベントのトレースのイネーブル化 (Enable network service event trace)	ネットワーク サービスのイベントのトレースをアクティブ化します。
ICCP管理のトレースのイネーブル化 (Enable ICCP admin trace)	ICCP管理のトレースをアクティブ化します。
デフォルトのトレースのイネーブル化 (Enable default trace)	デフォルトのトレースをアクティブ化します。

次の表で、Cisco CallManager SDL 設定の特性について説明します。

表 8 : Cisco CallManager SDL の設定に対するトレースの特性

特性	説明
SDLリンクステートのトレースのイネーブル化。 (Enable SDL link states trace.)	クラスタ内通信プロトコル (ICCP) リンクステートのトレースをアクティブ化します。
低レベルのSDLのトレースのイネーブル化。 (Enable low-level SDL trace.)	低レベルのSDLのトレースをアクティブ化します。
SDLリンクのポーリングのトレースのイネーブル化。 (Enable SDL link poll trace.)	ICCP リンクのポーリングのトレースをアクティブ化します。
SDLリンクメッセージのトレースのイネーブル化。 (Enable SDL link messages trace.)	ICCP未処理メッセージのトレースをアクティブ化します。
信号データのダンプのトレースのイネーブル化。 (Enable signal data dump trace.)	信号データのダンプに対するトレースをアクティブ化します。
関連タグのマッピングのトレースのイネーブル化。 (Enable correlation tag mapping trace.)	関連タグのマッピングに対するトレースをアクティブ化します。
SDLプロセスの状態のトレースのイネーブル化。 (Enable SDL process states trace.)	SDL プロセスの状態に対するトレースをアクティブ化します。
SDLのprettyプリントのトレースの無効化。 (Disable pretty print of SDL trace.)	SDL の pretty プリントに対するトレースを無効化します。 pretty プリントでは、後処理を実行しないでトレース ファイルにタブとスペースを追加します。
SDLTCPイベントのトレースのイネーブル化。 (Enable SDL TCP event trace.)	SDL TCP イベントのトレースをアクティブ化します。

Cisco CTIManager SDL のトレース フィールド

次の表で、Cisco CTIManager SDL 設定のトレース フィルタの設定について説明します。Cisco CTIManager サービスは Unified Communications Manager をサポートします。



ヒント シスコのエンジニアから指示された場合を除き、デフォルト設定を使用することを推奨します。



ヒント [サービスグループ (Service Groups)] ドロップダウン リスト ボックスから CTIManager サービスを選択すると、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウにこのサービスの SDI トレースが表示されます。Cisco CTI Manager サービスに対する SDI トレースをアクティブ化するには、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで Cisco CTIManager サービスに対して [すべてのトレースをイネーブル化 (Enable All Trace)] をオンにします。[SDL設定 (SDL Configuration)] ウィンドウにアクセスするには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [SDL設定 (SDL Configuration)] を選択します。Cisco CTIManager の SDL 設定に対するトレース フィルタ設定テーブルと Cisco CTIManager SDL の設定に対するトレースの特性テーブルに示されている設定が表示されます。

表 9: Cisco CTIManager の SDL 設定に対するトレース フィルタ設定

設定名	説明
各種のポーリングのトレースのイネーブル化。 (Enable miscellaneous polls trace.)	さまざまなポーリングに対するトレースをアクティブ化します。
各種のトレース(データベース信号)のイネーブル化。 (Enable miscellaneous trace (database signals).)	データベースの信号のようなさまざまなトレースをアクティブ化します。
CTIのトレースのイネーブル化。(Enable CTI trace.)	CTI のトレースをアクティブ化します。
ネットワークサービスのデータのトレースのイネーブル化 (Enable network service data trace)	ネットワーク サービスのデータのトレースをアクティブ化します。
ネットワークサービスのイベントのトレースのイネーブル化 (Enable network service event trace)	ネットワーク サービスのイベントのトレースをアクティブ化します。
ICCP管理のトレースのイネーブル化 (Enable ICCP admin trace)	ICCP管理のトレースをアクティブ化します。

設定名	説明
デフォルトのトレースのイネーブル化 (Enable Default Trace)	デフォルトのトレースをアクティブ化します。

次の表で、Cisco CTIManager SDL 設定のトレースの特性について説明します。

表 10: Cisco CTIManager SDL の設定に対するトレースの特性

特性	説明
SDLリンクステートのトレースのイネーブル化。(Enable SDL link states trace.)	ICCPリンクステートのトレースをアクティブ化します。
低レベルのSDLのトレースのイネーブル化。(Enable low-level SDL trace.)	低レベルのSDLのトレースをアクティブ化します。
SDLリンクのポーリングのトレースのイネーブル化。(Enable SDL link poll trace.)	ICCPリンクのポーリングのトレースをアクティブ化します。
SDLリンクメッセージのトレースのイネーブル化。(Enable SDL link messages trace.)	ICCP未処理メッセージのトレースをアクティブ化します。
信号データのダンプのトレースのイネーブル化。(Enable signal data dump trace.)	信号データのダンプに対するトレースをアクティブ化します。
関連タグのマッピングのトレースのイネーブル化。(Enable correlation tag mapping trace.)	関連タグのマッピングに対するトレースをアクティブ化します。
SDLプロセスの状態のトレースのイネーブル化。(Enable SDL process states trace.)	SDLプロセスの状態に対するトレースをアクティブ化します。
SDLのprettyプリントのトレースの無効化。(Disable pretty print of SDL trace.)	SDLのprettyプリントに対するトレースを無効化します。prettyプリントでは、後処理を実行しないでトレースファイルにタブとスペースを追加します。
SDL TCPイベントのトレースのイネーブル化 (Enable SDL TCP Event trace)	SDL TCP イベントのトレースをアクティブ化します。

Cisco Extended Functions のトレース フィールド

次の表に、Cisco Extended Functions のトレース フィールドについて説明します。Cisco Extended Functions サービスは Unified Communications Manager をサポートします。

表 11 : Cisco Extended Functions のトレース フィールド

フィールド名	説明
QBEヘルパーCTIのトレースのイネーブル化 (Enable QBE Helper TSP Trace)	テレフォニーサービスプロバイダーのトレースをアクティブ化します。
QBEヘルパーTSPIのトレースのイネーブル化 (Enable QBE Helper TSPI Trace)	QBE ヘルパー TSP インターフェイスのトレースをアクティブ化します。
QRTディクショナリのトレースのイネーブル化 (Enable QRT Dictionary Trace)	品質レポート ツールのサービスのディクショナリのトレースをアクティブ化します。
DOMヘルパーのトレースのイネーブル化 (Enable DOM Helper Traces)	DOMヘルパーのトレースをアクティブ化します。
冗長性および変更通知のトレースのイネーブル化 (Enable Redundancy and Change Notification Trace)	データベース変更通知のトレースをアクティブ化します。
QRTレポートハンドラのトレースのイネーブル化 (Enable QRT Report Handler Trace)	品質レポートツールのレポートハンドラのトレースをアクティブ化します。
QBEヘルパーCTIのトレースのイネーブル化 (Enable QBE Helper CTI Trace)	QBE ヘルパー CTI のトレースをアクティブ化します。
QRTサービスのトレースのイネーブル化 (Enable QRT Service Trace)	品質レポート ツールのサービスに関連するトレースをアクティブ化します。
QRT DBのトレースのイネーブル化 (Enable QRT DB Traces)	QRT DB アクセスのトレースをアクティブ化します。
テンプレートマップのトレースのイネーブル化 (Enable Template Map Traces)	標準テンプレート マップおよびマルチマップのトレースをアクティブ化します。
QRTイベントハンドラのトレースのイネーブル化 (Enable QRT Event Handler Trace)	品質レポートツールのイベントハンドラのトレースをアクティブ化します。
QRTリアルタイム情報サーバのトレースのイネーブル化 (Enable QRT Real-Time Information Server Trace)	品質レポート ツールのリアルタイム情報サーバのトレースをアクティブ化します。

Cisco エクステンション モビリティのトレース フィールド

次の表に、Ciscoエクステンションモビリティのトレースフィールドを示します。Cisco Extension Mobility サービスは Unified Communications Manager をサポートします。

表 12: Cisco エクステンション モビリティのトレース フィールド

フィールド名	説明
EMサービスのトレースのイネーブル化 (Enable EM Service Trace)	Cisco エクステンション モビリティ サービスのトレースをアクティブ化します。



ヒント Cisco エクステンション モビリティ アプリケーション サービスのトレースをアクティブ化する場合は、Cisco エクステンション モビリティ アプリケーション サービスの [トレースの設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで [すべてのトレースのイネーブル化 (Enable All Trace)] チェックボックスをオンにします。

Cisco IP Manager Assistant のトレース フィールド

次の表に、Cisco IP Manager Assistant のトレース フィールドを示します。Cisco IP Manager Assistant サービスは、Cisco Unified Communications Manager Assistant をサポートしています。

表 13: Cisco IP Manager Assistant のトレース フィールド

フィールド名	説明
IPMAサービスのトレースのイネーブル化 (Enable IPMA Service Trace)	Cisco IP Manager Assistant サービスのトレースをアクティブ化します。
IPMA Managerの設定変更ログのイネーブル化 (Enable IPMA Manager Configuration Change Log)	マネージャとアシスタントの設定に加えた変更のトレースをアクティブ化します。
IPMA CTIのトレースのイネーブル化 (Enable IPMA CTI Trace)	CTI Manager の接続に対するトレースをアクティブ化します。
IPMA CTIセキュリティのトレースのイネーブル化 (Enable IPMA CTI Security Trace)	CTI Manager のセキュアな接続に対するトレースをアクティブ化します。

Cisco IP Voice Media Streaming App のトレース フィールド

ここで説明する内容は、Cisco Unity Connection には適用されません。

次の表で、Cisco IP Voice Media Streaming App のトレース フィールドについて説明します。Cisco IP Voice Media Streaming アプリ サービスは、Unified Communications Manager をサポートします。

表 14 : Cisco IP Voice Media Streaming Application のトレース フィールド

フィールド名	説明
サービス初期化のトレースのイネーブル化 (Enable Service Initialization Trace)	初期化情報のトレースをアクティブ化します。
MTPデバイスのトレースのイネーブル化 (Enable MTP Device Trace)	メディアターミネーションポイント (MTP) 用に処理されたメッセージをモニタするトレースをアクティブ化します。
デバイスリカバリのトレースのイネーブル化 (Enable Device Recovery Trace)	MTP、会議ブリッジ、MOH に対するデバイスリカバリ情報のトレースをアクティブ化します。
Skinny Station メッセージのトレースのイネーブル化 (Enable Skinny Station Messages Trace)	Skinny Station Protocol のトレースをアクティブ化します。
WinSock レベル2のトレースのイネーブル化 (Enable WinSock Level 2 Trace)	高レベルで詳細な WinSock 関連情報のトレースをアクティブ化します。
保留音マネージャのトレースのイネーブル化 (Enable Music On Hold Manager Trace)	MOH オーディオ ソース マネージャをモニタするトレースをアクティブ化します。
アナンシエータのトレースのイネーブル化 (Enable Annunciator Trace)	アナンシエータをモニタするトレースをアクティブ化します。
DB設定マネージャのトレースのイネーブル化 (Enable DB Setup Manager Trace)	MTP、会議ブリッジ、MOH に対するデータベース設定や変更をモニタするトレースをアクティブ化します。
会議ブリッジデバイスのトレースのイネーブル化 (Enable Conference Bridge Device Trace)	会議ブリッジ用に処理されたメッセージをモニタするトレースをアクティブ化します。
デバイスドライバのトレースのイネーブル化 (Enable Device Driver Trace)	デバイス ドライバのトレースをアクティブ化します。
WinSock レベル1のトレースのイネーブル化 (Enable WinSock Level 1 Trace)	低レベルで一般的な WinSock 関連情報のトレースをアクティブ化します。
保留音デバイスのトレースのイネーブル化 (Enable Music on Hold Device Trace)	MOH 用に処理されたメッセージをモニタするトレースをアクティブ化します。
TFTP ダウンロードのトレースのイネーブル化 (Enable TFTP Downloads Trace)	MOH オーディオソースファイルのダウンロードをモニタするトレースをアクティブ化します。

Cisco TFTP のトレース フィールド

次の表に、Cisco TFTP のトレース フィールドを示します。Cisco TFTP サービスは、Unified Communications Manager をサポートします。

表 15: Cisco TFTP のトレース フィールド

フィールド名	説明
サービスシステムのトレースのイネーブル化 (Enable Service System Trace)	サービス システムのトレースをアクティブ化します。
ビルドファイルのトレースのイネーブル化 (Enable Build File Trace)	ビルド ファイルのトレースをアクティブ化します。
サブファイルのトレースのイネーブル化 (Enable Serve File Trace)	サブ ファイルのトレースをアクティブ化します。

Cisco Web Dialer Web サービスのトレース フィールド

次の表に、Cisco Web Dialer Web サービスのトレース フィールドについて説明します。Cisco Web Dialer Web Service は Unified Communications Manager をサポートします。

表 16: Cisco Web Dialer Web サービスのトレース フィールド

フィールド名	説明
Web Dialer Servletのトレースのイネーブル化 (Enable Web Dialer Servlet Trace)	Cisco Web Dialer Servlet のトレースをアクティブ化します。
Redirector Servletのトレースのイネーブル化 (Enable Redirector Servlet Trace)	Redirector Servlet のトレースをアクティブ化します。

IM and Presence SIP Proxy サービスのトレース フィルタの設定

次の表では、IM and Presence SIP Proxy のトレース フィルタの設定について説明します。

表 17: IM and Presence SIP Proxy サービスのトレース フィルタの設定

パラメータ	説明
Access Log のトレースのイネーブル化 (Enable Access Log Trace)	プロキシ アクセス ログ トレースをイネーブルにします。プロキシが受信した各 SIP メッセージの先頭行がログに記録されます。

パラメータ	説明
Authentication のトレースのイネーブル化 (Enable Authentication Trace)	認証モジュールのトレースをイネーブルにします。
Calendar のトレースのイネーブル化 (Enable CALENDAR Trace)	カレンダー モジュールのトレースをイネーブルにします。
CTI ゲートウェイのトレースのイネーブル化 (Enable CTI Gateway Trace)	CTI ゲートウェイのトレースをイネーブルにします。
Enum のトレースのイネーブル化 (Enable Enum Trace)	Enum モジュールのトレースをイネーブルにします。
Method/Event ルーティングのトレースのイネーブル化 (Enable Method/Event Routing Trace)	メソッド/イベントルーティング モジュールのトレースをイネーブルにします。
Number Expansion のトレースのイネーブル化 (Enable Number Expansion Trace)	Number Expansion モジュールのトレースをイネーブルにします。
Parser のトレースのイネーブル化 (Enable Parser Trace)	sipd の子 SIP パーサーの動作に関するパーサー情報のトレースをイネーブルにします。
Privacy のトレースのイネーブル化 (Enable Privacy Trace)	プライバシー要求に関する PAI、RPID、および Diversion ヘッダーの処理に関する情報のトレースをイネーブルにします。
Registry のトレースのイネーブル化 (Enable Registry Trace)	Registry モジュールのトレースをイネーブルにします。
Routing のトレースのイネーブル化 (Enable Routing Trace)	Routing モジュールのトレースをイネーブルにします。

パラメータ	説明
SIPUA トレースのイネーブル化 (Enable SIPUA Trace)	SIP UA アプリケーション モジュールのトレースをイネーブルにします。
Server のトレースのイネーブル化 (Enable Server Trace)	Server のトレースをイネーブルにします。
SIP メッセージとステート マシンのトレースのイネーブル化 (Enable SIP Message and State Machine Trace)	sipd ごとの SIP マシンの動作に関する情報のトレースをイネーブルにします。
SIP TCP のトレースのイネーブル化 (Enable SIP TCP Trace)	TCP サービスによる SIP メッセージの TCP トランスポートのトレースをイネーブルにします。
SIP TLS のトレースのイネーブル化 (Enable SIP TLS Trace)	TCP サービスによる SIP メッセージの TLS トランスポートのトレースをイネーブルにします。
SIP XMPP IM ゲートウェイ トレースのイネーブル化 (Enable SIP XMPP IM Gateway Trace)	SIP XMPP IM ゲートウェイのトレースをイネーブルにします。
Presence Web Service のトレースのイネーブル化 (Enable Presence Web Service Trace)	Presence Web Service のトレースをイネーブルにします。

IM and Presence のトレース フィールドの説明

次の表では、特定のコンポーネントに対するトレースのアクティブ化をサポートしているサービスのフィールドについて説明します。一部のサービスでは、サービスのすべてのトレースをイネーブルにする代わりに、特定のコンポーネントのトレースをアクティブ化できます。この章にないサービスの場合は、[トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで、そのサービスに [すべてのトレースをイネーブル化 (Enable All Trace)] が表示されます。

Cisco Access Log のトレース フィールド

次の表に、Cisco Access Log のトレース フィールドを示します。

表 18: Access Log のトレース フィールド

フィールド名	説明
Access Log のトレースのイネーブル化 (Enable Access Log Trace)	Access Log のトレースを有効にします。

Cisco Authentication のトレース フィールド

次の表に、Cisco Authentication のトレース フィールドを示します。

表 19: Authentication のトレース フィールド

フィールド名	説明
Authentication のトレースのイネーブル化 (Enable Authentication Trace)	認証トレースを有効にします。

Cisco Calendar のトレース フィールド

次の表に、Cisco Calendar のトレース フィールドを示します。

表 20: Calendar のトレース フィールド

フィールド名	説明
Calendar のトレースのイネーブル化 (Enable CALENDAR Trace)	Calendar のトレースを有効にします。

Cisco CTI ゲートウェイのトレース フィールド

次の表に、Cisco CTI ゲートウェイのトレース フィールドを示します。

表 21: CTIゲートウェイのトレース フィールド

フィールド名	説明
CTI ゲートウェイのトレースのイネーブル化 (Enable CTI Gateway Trace)	CTIゲートウェイのトレースを有効にします。

Cisco Database Layer Monitor のトレース フィールド

次の表に、Cisco Database Layer Monitor のトレース フィールドを示します。

表 22: *Cisco Database Layer Monitor* のトレース フィールド

フィールド名	説明
DB ライブラリ トレースのイネーブル化 (Enable DB Library Trace)	C++ アプリケーションのデータベース ライブラリのトレースをイネーブルにします。
サービスのトレースのイネーブル化 (Enable Service Trace)	サービスのトレースをイネーブルにします。
DB変更通知のトレースのイネーブル化 (Enable DB Change Notification Trace)	C++ アプリケーションのデータベース変更通知トレースを有効にします。
単体試験のトレースのイネーブル化 (Enable Unit Test Trace)	オンにしないでください。デバッグ目的でシスコのエンジニアが使用します。

Cisco Enum のトレース フィールド

次の表に、Cisco Enum のトレース フィールドを示します。

表 23: *Enum* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Enum のトレースのイネーブル化 (Enable Enum Trace)	Enum のトレースをアクティブ化します。

Cisco Method/Event のトレース フィールド

次の表に、Cisco Method/Event のトレース フィールドを示します。

表 24: *Method/Event* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Method/Event のトレースのイネーブル化 (Enable Method/Event Trace)	Method/Event のトレースをイネーブルにします。

Cisco Number Expansion のトレース フィールド

次の表に、Cisco Number Expansion のトレース フィールドを示します。

表 25: *Number Expansion* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Number Expansion のトレースのイネーブル化 (Enable Number Expansion Trace)	Number Expansion のトレースを有効にします。

Cisco Parser のトレース フィールド

次の表に、Cisco Parser のトレース フィールドを示します。

表 26: *Parser* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Parser のトレースのイネーブル化 (Enable Parser Trace)	Parser のトレースを有効にします。

Cisco Privacy のトレース フィールド

次の表に、Cisco Privacy のトレース フィールドを示します。

表 27: *Privacy* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Privacy のトレースのイネーブル化 (Enable Privacy Trace)	Privacy のトレースをアクティブ化します。

Cisco Proxy のトレース フィールド

次の表に、Cisco Proxy のトレース フィールドを示します。

表 28: *Proxy* のトレース フィールド

フィールド名	説明
プロキシの追加 (Add Proxy)	Proxy のトレースをアクティブ化します。

Cisco RIS Data Collector のトレース フィールド

次の表に、Cisco RIS Data Collector のトレース フィールドを示します。

表 29: *Cisco RIS Data Collector* のトレース フィールド

フィールド名	説明
RISDC のトレースのイネーブル化 (Enable RISDC Trace)	RIS データ コレクタ サービス (RIS) の RISDC スレッドのトレースをアクティブ化します。
システムアクセスのトレースのイネーブル化 (Enable System Access Trace)	RIS データ コレクタのシステムアクセス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
リンクサービスのトレースのイネーブル化 (Enable Link Services Trace)	RIS データ コレクタのリンク サービス ライブラリのトレースをアクティブ化します。

フィールド名	説明
RISDCアクセスのトレースのイネーブル化 (Enable RISDC Access Trace)	RIS データ コレクタの RISDC アクセス ライブラリのトレースをアクティブ化します。
RISDB のトレースのイネーブル化 (Enable RISDB Trace)	RIS データ コレクタの RISDB ライブラリのトレースを有効にします。
PI のトレースのイネーブル化 (Enable PI Trace)	RIS データ コレクタの PI ライブラリのトレースを有効にします。
XML のトレースのイネーブル化 (Enable XML Trace)	RIS データ コレクタ サービスの入出力 XML メッセージのトレースを有効にします。
Perfmon ロガーのトレースのイネーブル化 (Enable Perfmon Logger Trace)	RIS データ コレクタの perfmon データ ロギングをトラブルシューティングするためのトレースを有効にします。ログ ファイル、記録されたカウンタの総数、アプリケーションおよびシステム カウンタとインスタンスの名前、プロセスとスレッドの CPU パーセンテージの計算、ログファイルのロールオーバーと削除の発生をトレースするために使用します。

Cisco Registry のトレース フィールド

次の表に、Cisco Registry のトレース フィールドを示します。

表 30: Registry のトレース フィールド

フィールド名	説明
Registry のトレースのイネーブル化 (Enable Registry Trace)	Registry のトレースを有効にします。

Cisco Routing のトレース フィールド

次の表に、Cisco Routing のトレース フィールドを示します。

表 31: Routing のトレース フィールド

フィールド名	説明
Routing のトレースのイネーブル化 (Enable Routing Trace)	ルーティング トレースを有効にします。

Cisco Server のトレース フィールド

次の表に、Cisco Server のトレース フィールドを示します。

表 32: *Server* のトレース フィールド

フィールド名	説明
Server のトレースのイネーブル化 (Enable Server Trace)	Server のトレースをアクティブ化します。

Cisco SIP Message と State Machine のトレース フィールド

次の表に、Cisco SIP Message と State Machine のトレース フィールドを示します。

表 33: *SIP Message* と *State Machine* のトレース フィールド

フィールド名	説明
SIP メッセージとステート マシンのトレースのイネーブル化 (Enable SIP Message and State Machine Trace)	SIP メッセージとステート マシンのトレースを有効にします。

Cisco SIP TCP のトレース フィールド

次の表に、Cisco SIP TCP のトレース フィールドを示します。

表 34: *SIP TCP* のトレース フィールド

フィールド名	説明
SIP TCP のトレースのイネーブル化 (Enable SIP TCP Trace)	SIP TCP のトレースを有効にします。

Cisco SIP TLS のトレース フィールド

次の表に、Cisco SIP TLS のトレース フィールドを示します。

表 35: *SIP TLS* のトレース フィールド

フィールド名	説明
SIP TLS のトレースのイネーブル化 (Enable SIP TLS Trace)	SIP TLS のトレースを有効にします。

Cisco Web Service のトレース フィールド

次の表に、Cisco Web Service のトレース フィールドを示します。

表 36: Web Service のトレース フィールド

フィールド名	説明
Presence Web Service のトレースのイネーブル化 (Enable Presence Web Service Trace)	Presence Web Service のトレースを有効にします。

トレース出力設定

次の表に、トレース ログ ファイルの説明を示します。



注意 [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウで [最大ファイル数 (Maximum No. of Files)] または [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] を変更すると、サービスが実行中の場合は現在のファイル以外のすべてのサービスログファイルが削除されます。サービスがアクティブ化されていない場合は、サービスをアクティブ化したときにただちにファイルが削除されます。ログファイルの記録を保持する必要がある場合は、[最大ファイル数 (Maximum No. of Files)] または [最大ファイルサイズ (Maximum File Size)] の設定を変更する前に、サービスログファイルをダウンロードして別のサーバに保存してください。そのためには、Unity RTMT の Trace and Log Central を使用します。

表 37: トレース出力設定

フィールド	説明
最大ファイル数 (Maximum number of files)	指定したサービスのトレース ファイルの総数を指定します。 Cisco Unified Serviceability では、ファイルを識別するために、cus299.txt のようにファイル名にシーケンス番号が自動的に追加されます。シーケンス中の最後のファイルが一杯になると、最初のファイルのトレース データが上書きされます。デフォルトはサービスによって異なります。
最大ファイルサイズ(MB) (Maximum file size (MB))	トレース ファイルの最大サイズ (MB 単位) を指定します。デフォルトはサービスによって異なります。

トレース設定のトラブルシューティング

トラブルシューティング トレース設定ウィンドウ

[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウでは、事前に設定されたトラブルシューティング トレース設定を行う Serviceability GUI のサービスを選択できます。このウィンドウでは、クラスタ内の異なるノードに対してサービスを選択できます。これにより、選択したすべてのサービスのトレース設定の変更が行われます。1台のノードの特定のアクティブなサービスの選択、そのノードのすべてのアクティブなサービスの選択、クラスタ内のすべてのノードの特定のアクティブなサービスの選択、クラスタ内のすべてのノードのすべてのアクティブなサービスの選択が可能です。このウィンドウでは、非アクティブなサーバの横に [N/A] と表示されます。



- (注) IM and Presence の場合、IM and Presence 機能またはネットワーク サービスの事前に決定されたトラブルシューティング トレース設定には、SDI および Log4j トレースの設定があります。トラブルシューティング トレース設定が適用される前に、元のトレース設定がバックアップされます。トラブルシューティング トレース設定をリセットすると、元のトレース設定が復元されます。

トラブルシューティング トレース設定をサービスに適用した後で [トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウを開くと、トラブルシューティング用に設定したサービスがチェック付きで表示されます。[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] ウィンドウでは、トレース設定を元の設定にリセットできます。

トラブルシューティング トレース設定をサービスに適用すると、トラブルシューティング トレースがそのサービスに設定されたことを示すメッセージが [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウに表示されます。サービスの設定をリセットする場合は、[関連リンク (Related Links)] リスト ボックスから、[トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] オプションを選択できます。指定したサービスの [トレース設定 (Trace Configuration)] ウィンドウでは、すべての設定が読み取り専用として表示されます。ただし、最大ファイル数など、トレース出力設定の一部のパラメータを除きます。

トラブルシューティング トレース設定

始める前に

トレース設定の設定タスクとトレース パラメータの設定タスクを確認します。

手順

- ステップ 1** [トレース (Trace)] > [トラブルシューティング トレース設定 (Troubleshooting Trace Settings)] を選択します。

ステップ2 [サーバ (Server)] リスト ボックスから、トレース設定をトラブルシューティングするサーバを選択します。

ステップ3 [移動 (Go)] を選択します。

サービスの一覧が表示されます。アクティブ化されていないサービスは、[該当なし (N/A)] と表示されます。

ステップ4 次のいずれかの操作を実行します。

- a) [サーバ (Server)] リストボックスで選択したノードの特定のサービスをモニタするには、[サービス (Services)] ペインでそのサービスをオンにします。

たとえば、[データベースおよび管理サービス (Database and Admin Services)]、[パフォーマンスおよびモニタリング サービス (Performance and Monitoring Services)]、[バックアップおよび復元サービス (Backup and Restore Services)] ペインなどがあります。

この作業は、[サーバ (Server)] リストボックスで選択したノードのみに影響します。

- b) [サーバ (Server)] リストボックスで選択したノードのすべてのサービスをモニタするには、[すべてのサービスをチェック (Check All Services)] をオンにします。
- c) Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence クラスタのみ：クラスタ内のすべてのノードで特定のサービスをモニタするには、[すべてのノードで選択されたサービスをチェック (Check Selected Services on All Nodes)] をチェックします。

この設定は、クラスタ内のサービスがアクティブなすべてのノードに適用されます。

- d) Unified Communications Manager and IM and Presence クラスタのみ：クラスタのすべてのサービスをモニタするには、**すべてのノードのすべてのサービスをチェックする**をオンにします。

ステップ5 [保存 (Save)] を選択します。

ステップ6 元のトレース設定に戻すには、次のいずれかのボタンをクリックします。

- a) [トラブルシューティングトレースをリセット (Reset Troubleshooting Traces)] : [サーバ (Server)] リストボックスで選択したノードで元のトレース設定を復元します。また、選択可能なアイコンも表示されます。
- b) Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence クラスタのみ : [すべてのノードでトラブルシューティングトレースをリセット (Reset Troubleshooting Traces On All Nodes)] : クラスタ内のすべてのノードでサービスの元のトレース設定を復元します。

[トラブルシューティングトレースをリセット (Reset Troubleshooting Traces)] ボタンは、1 つ以上のサービスのトラブルシューティング トレースを設定してある場合にのみ表示されます。

(注) トラブルシューティングトレースを長時間イネーブルのままにすると、トレースファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスに影響が生じるおそれがあります。

[リセット (Reset)]ボタンをクリックすると、ウィンドウが更新され、サービスのチェックボックスがオフになります。
